

## 京都大学たちばな賞（優秀女性研究者賞）表彰式



3月3日（火）、京都大学事務本部棟5階大会議室にて京都大学たちばな賞（優秀女性研究者賞）の表彰式が行われました。たちばな賞は、優れた研究成果を挙げた本学の若手女性研究者を顕彰することによって研究意欲を高め、我が国の学術研究の将来を担う優れた女性研究者を育成することを目的として創設され、今回で第12回目となります。

今村 博臣男女共同参画推進センター広報・相談・社会連携事業ワーキンググループ主査の司会進行で、はじめに、男女共同参画推進センター長の稲葉 カヨ理事・副学長より開会の挨拶がありました。

次に、山極 壽一総長よりたちばな賞学生部門受賞者の永田 理奈氏（生命科学研究科博士後期課程2年）、研究者部門受賞者の杉村 薫氏（高等研究院 特定拠点准

教授）へ表彰状と記念盾が授与され、株式会社ワコール 加茂下 泰生取締役常務執行役員より副賞の「ワコール賞」が授与されました。続いて、優秀女性研究者奨励賞 学生部門受賞者の萬成 遥子氏（工学研究科博士後期課程2年）、研究者部門受賞者の辻 かおる氏（生態学研究センター研究員）、服部 佑佳子氏（生命科学研究科助教）へ山極総長より表彰状が、加茂下 泰生取締役常務執行役員より副賞が授与されました。続いて、山極総長、加茂下 泰生取締役常務執行役員が受賞者へ祝辞を述べられました。

その後、たちばな賞 学生部門受賞者の永田氏、研究者部門受賞者の杉村氏が研究発表を行いました。

最後に、川添 信介理事・副学長より閉会の挨拶があり、表彰式及び研究発表会は盛会のうちに終了しました。



### たちばな賞 優秀女性研究者奨励賞 受賞者 たちばな賞（優秀女性研究者賞）

| 部門      | 氏 名   | 所 属 ・ 身 分           | 研 究 テ ー マ            |
|---------|-------|---------------------|----------------------|
| 学 生 部 門 | 永田 理奈 | 生命科学研究科<br>博士後期課程2年 | 細胞競合の分子メカニズムの遺伝学的解明  |
| 研究者 部 門 | 杉村 薫  | 高等研究院<br>特定拠点准教授    | 機械的な力による多細胞秩序形成原理の解明 |

### 優秀女性研究者奨励賞

| 部門      | 氏 名   | 所 属 ・ 身 分         | 研 究 テ ー マ                       |
|---------|-------|-------------------|---------------------------------|
| 学 生 部 門 | 萬成 遥子 | 工学研究科<br>博士後期課程2年 | レドックスフロー電池における電解液流量制御についての基礎的研究 |
| 研究者 部 門 | 辻 かおる | 生態学研究センター<br>研究員  | 雌雄差が生態系において果たす役割の解明             |
| 研究者 部 門 | 服部佑佳子 | 生命科学研究科<br>助教     | オミクスデータから読み解く神経発生・栄養応答機構        |

## “Women and the World” フォーラム6 総長と語る！京大らしさと diversity & inclusion

3月3日（火）、本部棟1階ミーティングルームにて“Women and the World”フォーラム第6回「総長と語る！京大らしさと diversity & inclusion」を開催しました。

参加者の自己紹介後、女性教員懇話会代表の国際高等教育院教授の小畑 史子教授より挨拶があり、続いて女性教員懇話会広報の医学部附属病院 鈴木 和代特定助教より「新型コロナウイルス感染症のための小・中・高等学校の臨時休校に関するアンケート」の集計結果報告がありました。その後、テーマである「京大らしさと

diversity & inclusion」の観点から自由闊達さを失わない工夫や、多様な人にとって働きやすい職場環境を維持する工夫をしていくことについてなど、各自が直面している課題や対処法について、参加者がそれぞれの立場から総長や稲葉 カヨ男女共同参画推進センター長（理事・副学長）と活発な意見交換をしました。

1時間20分の短い時間ではありましたが、分野を超えた情報共有ができた充実したミーティングとなりました。新型コロナウイルス感染の対応に追われる中、多くの方にご参加いただきありがとうございました。



## 待機乳児保育室を使ってみた

それは医学部キャンパス北西角にある男女共同参画推進センター内にあり、外観上保育園らしさはほぼ無いが、抱き立てた乳児が窓際に顔を寄せているのが門外から垣間見ることがある。

案内サイト（脚注1）を見ると、受入対象となるのは「自治体に保育園入園申請をおこなったが、入園待ちを余儀なくされている研究者等」という赤文字がまず目に入る。産休明けに職場復帰したい多くの人はこの条件に該当するだろう。京都市の認可保育園の途中入所枠はほぼ「空きなし」状態なので、4月一斉入所を狙うしかない。一斉入所の申込に間に合うのは2月3日までに出生した子とされており、2月4日以降3月末までに生まれた子は翌年の1歳児枠に応募することになる（平成31年度の場合）。つまりスケジュールだけで見ても、産休明け（生後9週目）に即入園できる例はかなり限られる。待機乳児保育室は、出産を経てなお第一線で働きたい研究者にはなくてはならないサービスである。

利用申請には事前登録が必要なのだが、事前登録のタイミングはいつがいいだろうか。安定期に入ってからの方がいいのか、保育園をある程度調べてからの方がいいのか…と悩み出すとあっという間に時間が経ってしまう。事前登録日で優先順位が決まるので、正解は「妊娠がわかったらできるだけ早く」。まずはセンターにコンタクトを取ることをお奨めする。出産後改めて利用のための手続きや、実際に子を連れての面談があり、用意すべきものなどのリストをもらうことになる。但し、奇跡的に途中入所できた場合など、必要が無くなり次第、早急にキャンセルしよう。そうしないと他の人が断られてしまう。

実際に預けてみると、送迎時間の目処が立てやすいことや、別室で随時授乳もできるなど、学内ならではのメリットがある。それ以上にありがたかったのは、やはり他の同年代の子と見比べながら、プロの保育士に毎日のように相談できることだった。筆者の場合、早産でNICU 育ちの虚弱児だったこと、母子水入らずの期間が短かったこともあり、預けることに最初は負い目もあった。それでなくても3歳児神話のプレッシャーも感じた。しかし預けられた当人はと言うと、初日ですら母親を恋しがる様子が全くなく、保育士に抱かれ手を振らされるだけのあっさりしたお別れだった。すぐに、自分より少し大きい乳児の行動を目で追いかけて、真似するのに必死な毎日になった。生まれてから最初の15ヶ月は発達の月齢差が大きく、仰向け寝たきりから、室内のトンネルで遊ぶ乳児まで様々である(脚注2)。決して広くないスペースながら、月齢に配慮した工夫がなされ、保育士のみならずセンターの職員が通りすがりに目を配ってくれている。毎日提出するノートには、健康面だけでなく、その時々成長の様子が細かく書かれていて、あっという間に忘れてしまう乳児期の貴重な記録になった。

(脚注1) 待機乳児保育室案内サイト <http://www.cwr.kyoto-u.ac.jp/care/nursery/>

(脚注2) 保育室の対象乳児には生後15ヶ月未満の月齢制限がある(平成31年度の場合)

コラム「みんな どうしてる？」バックナンバー <http://www.cwr.kyoto-u.ac.jp/column/mina/>

(文責 育児介護支援事業 WG、専用アドレス: [ikwg@mail2.adm.kyoto-u.ac.jp](mailto:ikwg@mail2.adm.kyoto-u.ac.jp))

## 京都大学女性教員懇話会 ランチ会および総会開催のお知らせ

ランチ会を開催します。今回は年度初めの総会も兼ねます。

ご友人などお誘い合わせてどなたでもお気軽にご参加ください。

●ランチ会 2020年6月11日(木) 12時15分～(途中参加・退出可)

場 所: 吉田泉殿 1階 セミナー室

持参物: 各自お弁当お飲物など

★参加連絡(任意): 女性教員懇話会 ([female.jimgroup@gmail.com](mailto:female.jimgroup@gmail.com))

ウェブ参加併用 cisco webex ミーティング(参加用 URL は右 QR コード)



## 保育室利用保護者ランチ会

1月22日(水)に男女共同参画推進センター会議室にて、待機乳児保育室を利用している保護者の呼びかけでランチ会が行われました。保育室への送り迎え時は、バタバタと忙しく、保護者同士ゆっくり話す時間はありません。同じような月齢の子を持つ保護者の情報共有や情報交換の場となるよう開催され、教員、研究員、大学院生など9名の参加がありました。外国籍の保護者の方もおられ、英語を交えながらの和やかなランチ会となりました。

自己紹介から始まり、家庭での子どもの様子や保育室の感想、入園を希望している保育園についてなどを各自話されました。また「離乳食はどうしてるか」「冬に布団をけ飛ばすのをどうすればいいか」などの悩みに「赤

ちゃん便利グッズを使ってゆでた野菜を小分けにして冷凍しています」「着る毛布スリーパーを着せています」とのアドバイスがあり、なるほど!と声があがる程、盛況な意見交換が行われました。



## 京大病院「臨時学童保育」開設 3月5日～19日

新型コロナウイルスで小中学校高校の休校が突如決められた中で、京大病院の診療体制を守るために、京大病院看護部と男女共同参画推進センターのWGメンバーを含む医学部人間健康科学科の教員で、京大病院内に臨時学童保育を設置しました。

京都市および近隣の市では、共働きの保護者のために休校期間中も学校を開校し、午後3時頃まで児童の居場所を確保する方針がとられていました。しかしながら、保護者が午後3時までにお迎えに行けない場合、遠方の私立小学校に通う場合など、保育に困ると言う声があり、臨時学童保育の開設に踏み切りました。対象者は、病院に勤める医療スタッフ・事務職員が保育する小学校3年生までのお子さんです。

京都市の休校期間の8時半～17時15分まで、人間健康科学科の教員とともに、病院内の一室でさまざまな活動に取り組みました。朝、学校の宿題をやったあと、読書をしたり、ボードゲームに興じたり、トランプやお

絵かき、工作にも取り組みました。教員の指導でミニ卓球なども挑戦し、短い間にずいぶん上達しました。大学で取り組んでいるバーチャルリアリティを用いた作業療法の研究にトライしてくれたお子さんもおられました。

このような試みは、本学ではおそらく前例がないものと思われますが、京大病院の診療機能を維持するために、延べ44名の教員がボランティアで子どもたちとかかわり、期間中には延べ30名もの児童が参加してくれました。

コロナウイルスの拡散という未曾有の事態が、柔軟な働き方やフレキシブルな保育のあり方などに目を向けるきっかけをもたらしてくれたのかもしれませんが、本学にとって大切なのは人的資源です。本学教職員がどんなときも安心して働けるように、今後も考えて行ければ、と思います。



## 工学研究科「年度末一時保育」初の試み（3月27日～4月1日）

工学研究科では今年から年度末に、アンケートの結果を基に男女問わず要望の多かった一時保育をする試みが始まりました。保育園や学童保育は年度末あるいは年度初めに2日ほどの準備期間を設けており、その間は子

どもを預けることができない。この問題に対応するために研究科長裁量経費で一時保育の場ができました。2つの部屋が用意されていて、子どもたちは広々とした空間で楽しそうに遊んでいました。



## 連載：研究者になる！－第11回－

フィールド科学教育研究センター・准教授

芦生研究林 林長 石原 正恵

### ●環境問題を考えるきっかけとなった海外生活

商社勤務だった父は転勤が多く、私も国内・海外を転々とする幼少期を過ごしました。特にタンザニアで暮らした3年間の体験から、将来はアフリカの農村開発をして、貧困・環境問題を解決したい、と考えるようになりました。高校生になって本格的に進路を決めるときには、熱帯についての研究体制が整っている京都大学を選択し、受験勉強に励みました。

### ●研究者の道へ

京大は入学してみると、おもしろい先輩や先生がたくさんいて、海外の課題は日本の課題でもあるということに気づきました。また、今の研究に繋がる素晴らしい指導教官にも出会えました。「～しなくてはならない」ではなく、自分の好きなように楽しく研究しよう、オリジナリティの高い研究をしよう、という先生の哲学に触れました。その結果、樹木が若木から老木までの数百年という長い一生をどう生きているのかを最初の研究テーマとして選びました。木に登って調査しながら、木は自分が生まれた場所から動けないですが、若木から年をとるまでその時々環境や目標に応じて、毎年あるいは四季を通じて少しずつ動いていることを目の当たりにしました。人間とは異なる時間軸とメカニズムで生きている樹木をもっと知りたいと思うようになりました。

その後、全国の長期森林データを解析する環境省のモニタリングサイト1000プロジェクトや日本長期生態学研究ネットワークなどにに関わり、海外も含め多くの森林に行き、様々な研究者に出会いました。現在は、樹木の種多様性がどのように決まるのか、多様性と樹種ごとの生態が森林全体の機能とどのような関係にあるのかについて、昔の人が集めたデータも含め統合的に解析しています。

### ●家族や周りの協力を得ながらの研究生活。感謝の気持ちを忘れずに。

長いポストクの期間中に結婚、出産を経験しました。結婚当初から別居婚でしたが、さすがに子どもができたので同居し、パーマネントの職についていない私が育児を主に担当すると考えていました。でも、公務員の夫からの提案で、私は研究者としての業績を積むため産休を終えると同時に研究職に復帰し、夫は育休を取り一緒に京都そして北海道で暮らしました。夫の育休が明けた後は、夫は職場のある兵庫県で子ども達と暮らし、私は単

身赴任で平日は専ら研究に打ち込み週末は家族一緒に過ごす、という別居生活が始まりました。私が芦生研究林に勤務することになった今は、長男と次男が地元の小学校に入学し、私+長男+次男、夫+三男という別居スタイルです。兄弟が離れて暮らすのは可哀そうだなと思うことはあります。育休を取り時短勤務をしている夫が職場でどう思われているのかも気になります。ですが近い将来、私達のスタイルも「特殊」でなくなる時代が来ることを願っています。

### ●森を見つめ、色んな人とともに、森と人との持続的な関係を創っていききたい。

世界そして日本の森は、気候変動、シカの食害、開発、管理不足など課題が山積みです。研究者だけでは解決しないことのほうが多いです。多様な分野の研究者が協力するだけでなく、産業界、行政や一般市民など様々な分野の人と協働していく超学際研究が重要だと国際的にも言われてきています。私も芦生研究林のある美山町を中心にそうしたプロジェクトを始めたところです。意図せず、高校生のころの思いに戻ってきているとも言えます。美山町に暮らしてみて、熱い思いの方がたくさんいて、私自身が日々たくさんのことを学ばせていただいています。従来の科学とは異なる新しいものが生まれつつあるのかもしれない、新しい知を生みだしたいとワクワクしています。一方で、研究者が果たすべき役割とは何なのか、科学者としての責任とは、と悩むこともあります。でも、諦めずに、前向きに遠くを見据えてじっくりと進んでいきたいです。

### 編集後記

新年度となり、待機保育室の模様替えをしました。簡易ベッドなどの備品を新調し、新しいおもちゃも仲間入り！今まで以上に楽しく快適な空間になりました。みんなが来るのを楽しみに待っています。



Gender Equality Promotion Center

〒606-8303 京都市左京区吉田橋町  
電話 075 (753) 2437  
FAX 075 (753) 2436  
E-mail w-shien@mail2.adm.kyoto-u.ac.jp  
HP <http://www.cwr.kyoto-u.ac.jp/>